

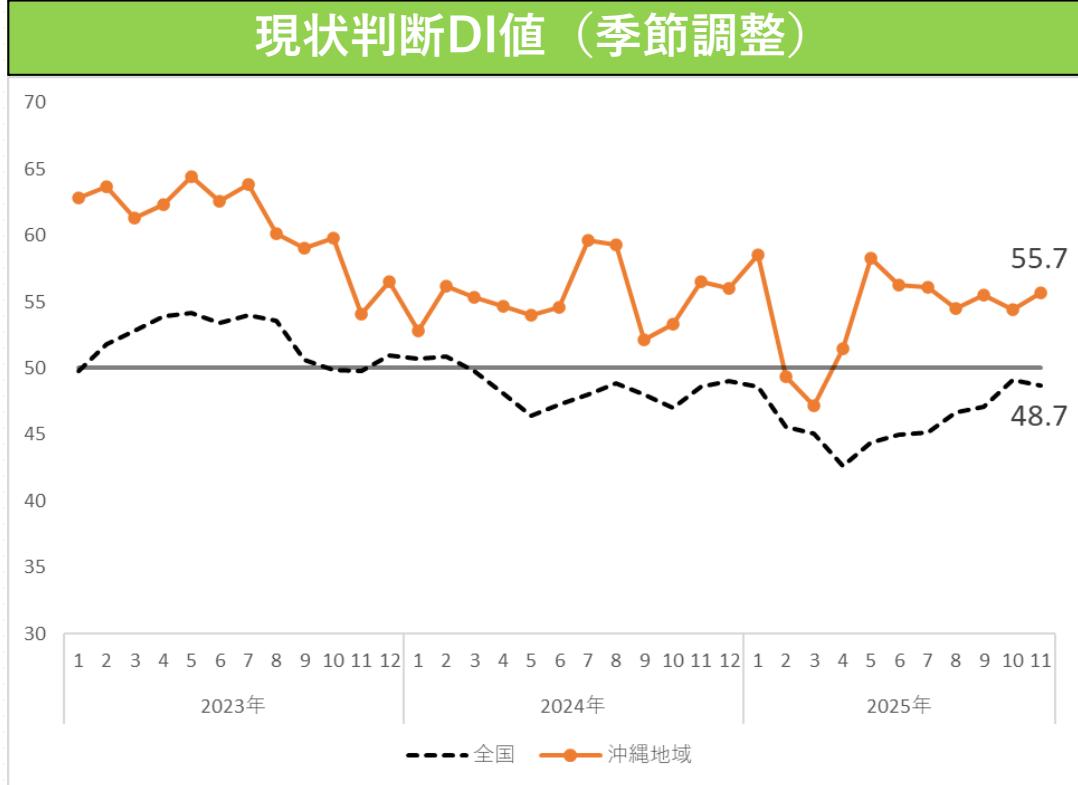
景気ウォッチャー調査 (沖縄地域) ～2025年11月調査～

現状：観光が県内の景気をけん引し好況が続いている
先行き：日中関係の懸念はあるが観光需要への期待が続く

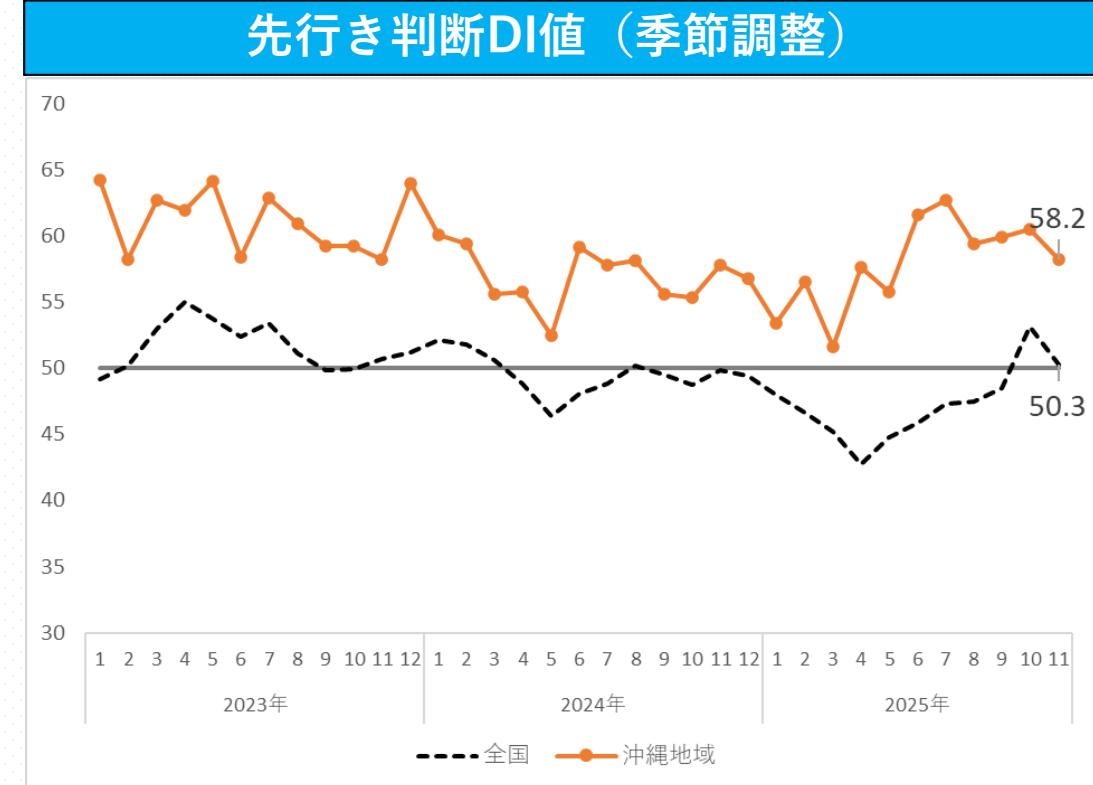
2025年11月調査DI値（季節調整値）

- 沖縄地域の現状判断DIは、55.7と好不調の判断基準となる50を上回り、8か月連続で好況を維持している。対して全国は48.7と不況が続いているが、今年の5月から回復傾向にある。
- 沖縄地域の先行き判断DIは、前月比2.3ポイント減少の58.2となり、判断基準の50を上回っていることから2～3か月後の景気動向も好況が続く見通しである。また、全国は50.3と前月比2.8ポイント減少したが2か月連続で好調の見通しである。

現状判断DI値（季節調整）



先行き判断DI値（季節調整）



現状判断のコメント①

- 「家計動向関連」では、観光需要は好調を維持しており、土産品店や飲食店で観光客が増加し、観光名所ではインバウンドを中心に料飲部門の購入単価の上昇がみられている。
- 11月から県内の平均気温も低下したこともあり、百貨店などでは秋冬衣料品の販売量が増えている。一方、家電量販店では、省エネ家電買換えキャンペーンの反動減や気温低下により、冷蔵庫、洗濯機、エアコン、テレビなどが前年割れするなど業種によって異なる影響が出ている。
- また、コンビニも店舗によっては、来客数と売上が伸びているのに対して、値上げが続いたことにより販売量の落ち込みもあることから、県内需要は大きな変化はみられない。

<家計動向関連>

◎：良くなっている、○：やや良くなっている、□：変わらない、▲：やや悪くなっている、✗：悪くなっている

○	一般小売店 [土産]	・ 国内観光客や、欧米からのインバウンド増加が影響している。
○	百貨店	・ 11月以降は平均気温が低下したことから、秋冬衣料品の販売量が増加している。
○	コンビニ	・ 来客数の増加により売上がり若干伸びている。
○	その他飲食店 [バー]	・ 前月に続いて来客数が増えている。ただし、県外客が多く、地元客はそこまで増えていないため、まだ不安がある。
○	観光名所	・ 料飲部門がインバウンドを中心に購入単価が上がっている。
□	家電量販店	・ 前年の省エネ家電買換えキャンペーンの反動減と気温の低下が大きな要因となり、売上比率の高い、冷蔵庫、洗濯機、エアコン、テレビを求める客が前年割れしている。
▲	コンビニ	・ 食品から日用品まで、値上げが続いていることもあり、販売量が徐々に落ち込んできている。売上金額は、直近と同等か微減している状況である。

現状判断のコメント②

- 「企業動向関連」では、建設業において受注が順調であるなど「やや良くなっている」。また、輸送業では、年末年始やクリスマスなどの催事に向けて発注量が増加するなど、例年と「変わらない」状況である。
- 「雇用関連」では、職業安定所において求人数は減少しているが、人手不足の相談が多いなど、人手不足は続いている。
- 学校では例年、4月卒業予定者への求人がこの時期でもあるが、4月卒業予定の学生への求人が先月からほとんどみられていない。担当者は、AIの普及により必要な人材の減少を懸念している。

<企業動向関連>

◎：良くなっている、○：やや良くなっている、□：変わらない、▲：やや悪くなっている、×：悪くなっている

◎ 建設業	・受注は順調で、今月も大型工事を受注している。他社の受注状況も良いと聞いているため、しばらく良い状況が続くとみられる。
□ 輸送業	・年末年始、クリスマス等の催事のため、物量、発注量が増加傾向にあるが、例年どおりに推移している。

<雇用関連>

□ 職業安定所	・前年同月比で求人数は減少したが、求人者から人手不足の相談は多い。
▲ 学校	・例年は、この時期でも来春卒業予定者の求人が来ていたが、前月からほとんど動きがみられない。人材が充足したのか、若しくはAIを業務に取り入れることでの必要人材の減少を懸念している。

先行き判断のコメント①

- 「家計動向関連」では、観光需要の増加が期待されている一方で、日中関係によりクルーズ船が寄港しないなどの影響も出てきていることから、中国人観光客減少が懸念されている。
- 一方、土産品店や飲食店などを含め、全体的に観光客増加の期待が大きいことから「やや良くなる」との判断がみられている。
- 県内需要は、年末に向けて来客数や販売量の増加が期待されている。また、12月から沖縄県内の最低賃金が引き上げられたことによる消費増加も期待されている。

<家計動向関連>

◎：良くなる、○：やや良くなる、□：変わらない、▲：やや悪くなる、✗：悪くなる

○	一般小売店 [土産]	・今後も国内観光客の増加が見込まれるが、最近の中国との関係でクルーズ船の寄港回数減少や下船しない中国のインバウンドも増加するとみられ、その影響が出るとみられる。
○	百貨店	・今後は年末商戦を控え、来客数や買上点数の増加が見込まれる。
○	その他専門店 [書籍]	・最低賃金引上げで、消費も増えるとみている。
○	その他飲食店 [ファーストフード]	・1月前半は年始の繁忙で2週目までは良くなり、後半から2月にかけては年間で最も厳しい状態になるが、前年と比べると良くなる見通しである。ただし、台湾情勢の影響で、中国、香港からのインバウンドの減少が顕著に出るのを懸念している。
□	観光型ホテル	・2月の予約は、国内客を中心に例年以上の動きで目標達成の見込みとなるなど、今後の動きに期待が持てるところである。一方で、中国客の減少も予想されることから、双方のバランスを考慮して、変わないとみられる。
▲	スーパー	・日中関係によるクルーズ船のキャンセルなど影響が出始めていることから、年明けの春節の時期が、足元の商圈に大きな影響があると懸念される。

先行き判断のコメント②

- 「企業動向関連」では、食料品製造業において、12月からの賃上げによる消費増加が期待されることから「やや良くなる」とみている。また、窯業土石業は、見積、受注などが現状維持であることから「変わらない」とみている。
- 「雇用関連」では、求人情報誌製作会社において、1月より求職者が動き出し、企業も採用に向けて動くとの見通しから、「やや良くなる」とみている。
- 一方、2027年卒の学生確保に向けた求人が多く見込まれているのに対して、採用数の減少を危惧していることから「やや悪くなる」との見通しもある。

<企業動向関連>

◎：良くなる、○：やや良くなる、□：変わらない、▲：やや悪くなる、×：悪くなる

<input type="radio"/>	食料品製造業	• 12月の賃上げ状況などで、一般消費者の財布のひもが緩み良くなるのではないかと期待している。
<input type="checkbox"/>	窯業土石業	• 見積依頼、受注、生産は共に横ばいで推移しており、当面は現状維持を見込んでいる。

<雇用関連>

<input type="radio"/>	求人情報誌製作会社	• 1月は求職者の動きが徐々に活発化し、企業側もこの時期から採用活動を本格的に再開すると見込まれる。その結果、12月末まで抑制されていた求人数は反動的に増加へ転じる可能性が高く、今後は企業の採用意欲が緩やかに回復していくとみられる。
<input type="triangle"/>	学校	• 2027年卒向けの求人数が多く見込まれるが、採用数の減少があると危惧している。

<用語の説明>

【景気ウォッチャー調査】

- 地域の景気を観察できる立場にある人々から、統計指標だけでは把握できない顧客の様子など日々感じている街角の景気動向を迅速に把握するため、毎月実施されている調査。

【DI値】

- 物価などの景気変動に関する複数の指標から、景気の方向性や各経済分野への波及度合いを示す。値が50を上回ると景気が好況傾向にあり、50を下回ると不況傾向にある。

【季節調整値】

- 季節的な要因で毎年同じような動きをするもの（夏になるとアイスクリームが沢山売れるなど）があることから、前月や前々月と比較する際に季節的な要因を除いた数値。

【現状判断(景気の方向性)】

- 3か月前の景気状況と比較した、今月の身の回りの景気の具体的な状況などの説明。

【先行き判断】

- 2～3か月先の身の回りの景気を今月の景気と比較した際の判断理由。

※本資料は、2025年12月8日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」をもとに作成しています。詳細な結果は下記URLからご確認ください。
<https://www5.cao.go.jp/keizai3/2025/1208watcher/menu.html>